

国際交流事後活動ニュース

# MACRO COSM

◎特集 国際青年交流会議

●講演 上智大学法学部 猪口邦子 教授

マクロコズム '96.9



vol. 12

財青少年国際交流推進センター

## 特集 国際青年交流会議

1996年7月12日：東京全日空ホテル



▲ 参加青年を代表して会議報告をするドミニカ共和国のアナイマ・デフリアスさん



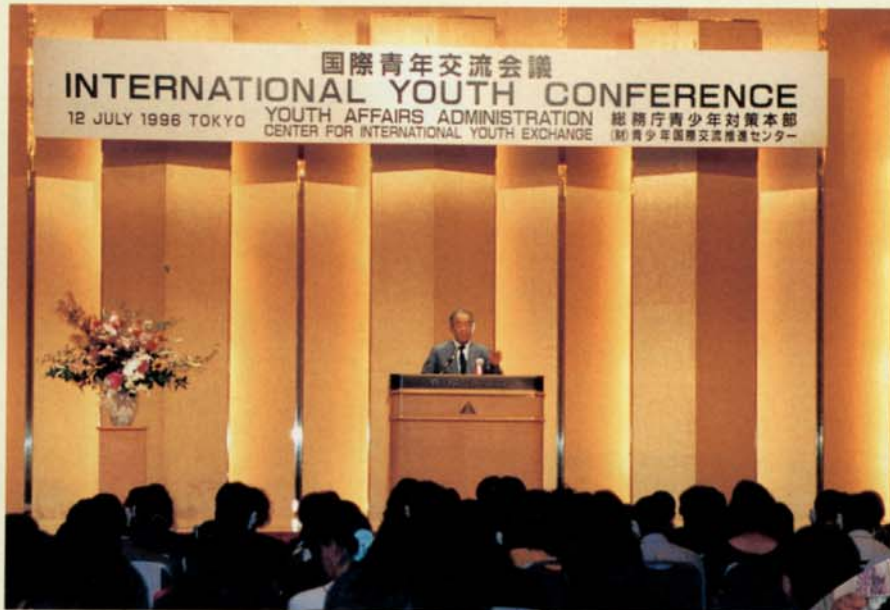
皇太子同妃両殿下の御成婚を記念して、平成6年度より始められた「国際青年育成交流」事業の招へいプログラムの一環として開催されるもので、同事業に参加する日本派遣青年と外国招へい青年を含めた約300人が一堂に会しました。

基調講演に、国際日本文化研究センター所長であり京都大学名誉教授でもある河合隼雄氏を迎え「人間関係の文化差」と題して講演をいただき、その後、青年たちによってグループ討論の場で意見交換が行われました。グループ討論終了後、日本の伝統文化として「狂言」が紹介され、大蔵流の若手により「棒縛」が演じられました。最後には、皇太子同妃両殿下の御臨席の下に歓迎レセプションが催され、会場は和やかな雰囲気につつまれました。

### 〔平成8年度対象国〕

日本青年派遣国：ブラジル、ドミニカ共和国、ドイツ、インドネシア、ジョルダン  
ネパール、アメリカ合衆国、ジンバブエ

外国青年招へい国：ブラジル、ドミニカ共和国、エジプト、ドイツ、グアテマラ、ハンガリー  
インド、インドネシア、イスラエル、イタリア、ジョルダン、カザフスタン  
ネパール、南アフリカ、アメリカ合衆国、ジンバブエ



◀ 河合隼雄氏  
心理学の立場から、同氏の  
体験も交えて熱心な講演を  
いただきました

外国青年の熱心な質問に、  
一生懸命答えている日本青年



◀ 「棒縛」を熱演する大蔵流の若手狂言師達  
左から茂山正邦（次郎冠者）、茂山宗彦（主人）、  
茂山茂（太郎冠者）

ワークショップで外国青年  
に狂言の笑い方を教える  
茂山千三郎（左）



## 国別都内見学

1996年7月11日(木)、東京の旧さと新しさを体験してもらうために、日本青年が3名ずつ国別に付き添い、電車とバスを使って都内を案内しました。来日4日目のフレッシュな体験に、様々な質問が飛び交っていました。

▼ 街の人々と交流(イタリア)



◀ 水上バスをエンジョイ(グアテマラ)



◀ ご利益がありますように(ハンガリー)



◀ 日本流に手を清めて(グアテマラ)



▼ ウォーターフロントの最新ビル街にて(カザフスタン)



▼ 日本の最新通信技術に接して(ブラジル)



▲ 願い事は何か? (ブラジル)





▲ それぞれのお国事情を紹介し合う青年たち

グループ討論終了後には、日本の伝統文化の紹介として、狂言「棒縛」が、大蔵流の若手によって演じられました。演技の後のワークショップでは、外国青年に8名ほど舞台に上がってもらい茂山千三郎氏により、狂言の笑い方や物の投げ方の

演技指導が行われました。この際は、会場全体が一つになって笑いの渦が巻きおこり大変に盛り上がり、嬉しいハプニングも起こりました。エジプトの青年が「笑い方」指導のお返しにと、エジプトでお祝いの席に演じられる掛け声を演じてくれて、それも皆で演じてみるという交歓が行われたのです。

会議終了後は、皇太子同妃両殿下の御臨席の下、関係各国の駐日特命全権大使をはじめとする大使館関係者、青少年団体関係者が出席し、外国青年の歓迎レセプションが催されました。

レセプションでは、中西総務庁長官のあいさつの後、招へい青年を代表して、ドミニカのアナイマ・デフリアスさんから会議報告があり、赤城総務政務次官の発声による乾杯の後、両殿下を交えての国際色豊かな懇談のひとつとなりました。



ことばがわからなくても ▶  
パフォーマンスは万国共通



## 伝統文化を知ろう!

## 能とは? 狂言とは?

**能 (能楽):** 日本の代表的舞台芸術の一つで約 700 年の伝統をもつ。日本固有の神楽系の歌舞に 7～8 世紀にアジア大陸からの散楽が混じってできた猿楽と農耕神事に発する田楽が交流熟成されてできた。大成者は観阿弥・世阿弥親子である。ことに世阿弥は現行曲の大半を自作し、「風姿花伝」を始め多くの芸論を残した。

江戸時代には将軍、武家の式楽となり、近代に入ると華族など上流階級の嗜みとなったが、最近では学生層にまで普及している。風土記、「源氏物語」、和歌集などに取材した謡曲を、シテ (主演者) が地謡 (合唱)・囃子 (笛・大鼓・小鼓・太鼓) と共にうたい舞う。荘重典雅ムードを幽玄といい、その美の極致を花という。観世・宝生・金剛・金春・喜多の 5 流がある。

**狂 言:** 能の間に挟んで演じられる、せりふとしぐさによる笑劇。能が歴史・伝統によって人間の悲劇的な面を厳粛に描くのに対し、日常の断片の中に人間の愚かしさ、弱さ、哀れさなどを風刺的に描く。江戸の末期から盛んになり、現在では能に付随したものという従来の意識が薄れ、独立の芸能としての意識が生まれ、ファン層も拡大している。大蔵、和泉の 2 流がある。

## 棒 縛 (ぼうしばり)

〔分類〕 太郎冠者狂言

〔人物〕 シテ  
アド

太郎冠者 [肩衣半袴出立]: 茂山 茂

主 [長上下出立]: 茂山 宗彦

アド (小アド) 次郎冠者 [肩衣半袴出立]: 茂山 正邦

〔鑑賞〕

主人は、いつも自分が外出したすきに、二人の召使い、太郎冠者と次郎冠者が盗み酒をすることに気づき、ある日一計を案じ、次郎冠者の両腕を左右に広げたまま棒に縛り、太郎冠者は後ろ手に縛ってから外出する。残された二人は、やはり酒が飲みたくなり、苦心の結果、不自由な格好のま

ま大盃に酒を酌み、互いの口まで運んで飲むという、珍妙な酒盛りを始め、歌舞に興ずるところへ主人が帰宅し、叱責される。

酒を題材に、日本古来の武芸の一つ棒術を配し、主従の対立を明るく描く。曲中舞われる小舞は大蔵流では《七つに成る子》の一部と《十七八》。

現在の国際社会において日本が考えるべき新たな視点



## ～冷戦後の国際システムと アジア太平洋地域の課題～

上智大学法学部教授  
猪口 邦子

### 国際貢献の基本

冷戦が終わると、日本の役割も増え、国際貢献の依頼が多くなります。ここで大切なことは、国際貢献をする時は、自分の優越しているところで貢献するというのが基本だということです。ですから、自分は何について優越しているかを知ることから国際化は始まるわけです。別の言い方をすると、優れたものを何か一つ持っていないと、実は何も役に立たないということになりかねません。このことは、人間でも、国家でも同じです。皆さんも、私はこれだけは人様に何かして差し上げることができるというものを持つべきです。英会話、日本舞踊、障害者の世話の経験、国際政治の話、ピアノなど何でもよいのです。日本という国家の場合、優越しているものは資金力、経済力、技術力です。したがって、日本の国際貢献の中心となる柱は、ODA、技術移転、南北協力、環境保全のための技術移転などの地味ではあるが相対的に日

本が卓越している分野になります。自衛隊のPKOの協力は、国として総合的に国際政治にコミットするという点では重要で、非常に危険を犯して仕事をするという点で尊いのですが、日本の国際貢献の中心となる柱という位置づけにはならないと思います。

### これからの国連と日本

これからは国連の役割が重要になります。冷戦期は米ソが拒否権を発動しあい安全保障理事会が休眠状態になってしまいました。しかし、冷戦が終了し、拒否権の投げあいが終わり、安全保障理事会としての決定ができるようになりました。

ところが、50年も休眠した組織は十分に機能するとは限りません。また、安全保障理事会の研究によると、最近の戦争の共通の原因として、経済破綻が浮かび上がり、援助と引換えに銃を捨ててもらおうことが考えられています。そこで、安全



保障理事会に、目覚ましい成長があり、資金力のある日本とドイツを常任理事国として入れようという機運もありました。

しかし、ドイツは旧東ドイツを抱え込んでおり、その余裕はありませんと言い切りました。すると、頼りは日本だけです。しかし、日本は、国内でのコンセンサスを得て対応するのに時間がかかり過ぎるという弱点を持っています。この時、常任理事国になると日本は軍事化することになるのだという議論もありました。その後、1年、2年たった今日では、常任理事国になってもそのような心配はないことが分かりました。国連も日本が銃を持って安全保障理事会に来ることを意図してはいなかったのです。しかし、もう国連ではその話はされなくなっていたのです。政治では勢いに乗ることが大切で、みんなが担いでくれるという時に担がれないと駄目なのです。人がそんなに頻繁に会うわけでない国際政治においては特にそうなのです。

私は、核兵器ではなく、お金で人々が銃を捨て人の命が救えるのなら、それでも良いのではないかと思います。もちろん、その後ずっと札東外交を継続するというのは良くないのですが。安全保障理事会の常任理事国になるなら別にして、今後、日本としては、経済国家として紛争解決はどう臨むか、あるいはどう貢献できるかということを含めて、考えていかななくてはと思います。

### 日米安全保障条約の再定義

次に、日米安全保障条約の再定義について説明したいと思います。今までのこの条約は、日本が

軍事攻撃を受けた時に、アメリカと日本が共同対処するという内容でした。日本が物理的に侵略を受けることの他は、何も想定していなかったのです。冷戦が終わり日本が直接上陸作戦の対象となることはあり得なくなりましたが、アジア全体としては非常に不安定な状態にあります。そこで条約上の役割を再定義し、政治的な関係の礎として残したいのだと思います。日本が直接に武力侵略を受けなくても、近隣で武力紛争が発生した時に、これは私の国のことでないのだから知らないというわけにはいかないのです。

集団安全保障の議論が、日本ではよく新聞に出ます。しかし、それは冷戦期の用語なのです。冷戦期では欧州の NATO 軍のように、明確な仮想敵国に対する固定的な同盟を持っていました。しかし、冷戦後はそういう固定的な仮想敵国はいないのです。もちろん、武力沙汰はあり得ます。しかし、武力を発動した国が永遠に敵で、NATO のように同盟を作って対処すべき相手かと考えると、必ずしもそうではないのです。武力沙汰になりそうな時は、まず、それを止めてくれと言わなければならぬのです。また、武力沙汰を止めさせるために、それぞれの国が自国の国是の範囲でできることをやるでしょう。しかし、それは相手を敵として永久に憎み、封じ込め戦略を永久に続けていくということとは関係ないのです。まず停戦に持ち込み、その後、外交交渉に持ち込み、非暴力的に対応するのです。

### 憲法の範囲でできること

その時、アメリカは、例えば、航空自衛隊が米軍のパイロットとともに飛ぶことを絶対に望んではいないのです。米軍がそのようなことを望んでいるかのような錯覚を日本の言論界に与え、憲法改正を一気に進めるべきだという議論は一種のまやかしです。なぜなら、アメリカは一度として、政府間で正式に、憲法第9条を改正して米軍とともに自衛隊が戦闘行動に従事できるように要請したことはないからです。また、これからもそのようなことはないでしょう。多様性を容認するというのは、冷戦後の国際政治の特徴なのです。軍事が中心であった冷戦期ですら言われなかったことを冷戦後に言われることはないのです。

憲法の範囲内で、できることはまだたくさんあります。それを考えずに、一気に憲法改正とか、安全保障条約の双務性という表現で勇み立つのはどうでしょうか。アメリカが日本に要求していることは、万が一の人道的な支援なのです。例えば、近隣諸国で戦争があり負傷者が運ばれてきた時に備えて、野戦病院を建てる段取りを決めておくといった程度なのです。しかし、日本では、現在、この程度のことの段取りも定まっておられません。今の日本には有事対応の法律がないからです。そうするとどうなるかを野戦病院の例で考えましょう。医療法の中に病院の構造や施設に関する規定があり、それらを厚生省に申請しなくてはなりません。急造の野戦病院がこのような規定を満たすことは困難でしょうし、申請する時間的余裕もないでしょう。しかし、この規定を満たさない所で

医療行為をしたら法律違反になるのです。普通の政治家は、この問題は面倒だし、有権者から疑いの目で見られることもあるので、あまり真剣には考えません。しかし、それはヒューマンな立場とは言えないでしょう。自国が直接に暴力を受けない場合でも、人道的な支援のためにできる限りの貢献することは冷戦後では当然のことだと思います。

### 戦死者をださない戦争

在日米軍基地でも、アメリカ本国でも、上陸作戦を担当する海兵隊の規模が縮小しています。このことは、これからは上陸作戦はないということを意味しています。なぜないかということ、上陸作戦では多くの戦死者が出るからです。アメリカの今日の民主主義の水準は戦死者が出ると政権がもたないところまでできています。戦略国家としてここまできたのはすごい成果であると思います。



アメリカはベトナム戦争の敗戦によって大転換したのです。戦死者が出ると戦争で負けるということを認識したのです。情報化が進み、人を殺す場面をニュースで放映されると、見た人は反戦的になるのです。また、情報化を止めることは困難になっているので、この傾向はますます強まるでしょう。

戦死者を出さないように戦争をするということで行われたのが湾岸戦争です。湾岸戦争では、空襲方法も今までと全く違い、軍事目標だけを狙い撃ちするピンポイント空爆がなされました。確かに失敗して隣の孤児院がやられたということなどがありました。しかし、それは、作戦が成功した結果たくさんの方が死んだベトナムの北爆の場合などとは、思想的に違うのです。この思想的な違いを理解しないと、今後の地域紛争の行方を理解することはできません。

アジアは人口密集度が極めて高い地域です。したがって、ここで戦争が起ると、戦死者が多くなりやすく、アメリカは、ここでは戦争ができないと認識しているのです。人口が多いことは最大の安全保障ということになるかもしれません。

### 国家の安全保障と人間の安全保障

人間の安全保障があります。国家の安全保障もあります。そして、国家の安全保障は人間の安全保障と両立しなければいけないと考えます。

しかし、冷戦期においては必ずしもそうではありませんでした。国家の安全保障の下に、若干の人間の安全保障の揺らぎはやむを得ないものとし

て、黙視されたのです。

沖縄の少女暴行事件は、国家の安全保障の枠組みである日米安全保障条約が、一人の少女の安全保障と両立しなかったことを示しているのです。大統領が事件後何か月か経った後の日本訪問においてもこの問題に言及したように、二つの安全保障の両立が重大な課題になってきたのです。これは大きな成果です。今後、人間にとっての安全、広い意味での安全という観点から、国家の安全保障の枠組みをすり合わせていくことが求められるでしょう。

(終わり)



▲ 皆さん次回の参加もお待ちしています

次回からは、去る7月12日に開催されました「国際青年交流会議」における河合隼雄氏(京都大学名誉教授)の講演録を掲載する予定です。

## Seeds of Global Harmony を奏でて…

「第8回世界青年の船」報告会  
実行委員長 木村 隆紀

第8回世界青年の船の報告会が去る6月30日に代々木のオリンピックセンターで行われた。この報告会は一般の人をはじめ、第9回参加予定の皆さんに向けて、事業の内容や第8回の船の様子を伝えることを目的に実施され、5月から10余名のメンバーが集い、事前の会議を重ねてきた。

この企画を考える上で、一番苦心したのは、この事業に参加して体験した様々な出来事からの「悲喜こもごも」を視覚や聴覚を通して、いかに参加者に伝えるかという点だった。

実行委員会での話し合いの結果、次の五つを盛り込むことにした。

- (1) 船内生活に関するビデオ上映
- (2) 船内生活紹介のコント・トークショー
- (3) 体験パネルディスカッション
- (4) 民族衣裳ファッションショーと歌
- (5) 懇親会

実行委員会での企画決定をうけて、3月に晴海で下船してから、全国各地でそれぞれの生活に戻っていった仲間たちが、その距離を感じさせない見事なチームワークをこの報告会に向けて見せてくれた。プロ級の出来ばえで船上生活を再現してくれたビデオ、睡魔と闘いながら情熱を傾け作成されたパンフレット、超多忙の中で用意された資料の数々、ほとんど一朝一夕で打ち合わせを行ったにもかかわらず、アドリブを加えながらも息のあ

ったコントやパネルディスカッション、そして華やかなファッションショー。また、海外からも外国青年から多くの手紙や写真・子供たちの絵がこの報告会の為に送られ、展示物のコーナーを飾った。

この報告会の成功はもとより、70名に及ぶ関係者が代々木の会場に駆けつけ、久しぶりの再会に時間を惜しんで献身的に報告会の運営に協力し、私たちのテーマであった“Seeds of Global Harmony”を奏でたことは感動に値する。このハーモニーに自分も参加できたことは光栄である。願わくば、自己満足ではなく、この報告会を見に来て下さった人たちにも「何か」感じるものを伝えられ楽しんで頂けたらこの上ないと思う。

最後になったが、このように私たちの「船上生活」を表現できる機会を与えて下さった総務庁青少年対策本部とIYEOの皆さんに感謝し文章を結びたい。



▲ 参加者と懇談する木村実行委員長(中央)

## 参加者からの一言

1月15日の都内視察でNHKを案内した外国青年がビデオに写っていて、とても興味の内容でした。イスラム教徒の男女関係や生活の話も楽しく勉強になりました。(男性 T.T.)

自分たちの経験を思い出し、とても懐かしくなりました。こういう機会は大切だと思うし、参加した時の感動をずっと持ちつづけていきたいと感じました。(女性 Y.N.)

皆すごいパワーなので圧倒されてしまいました。殆ど呆然と眺めていた感じです。

(男性 Y.O.)

楽しいビデオ上映で旅の感動を味わい、パネルディスカッションでは普段考えていなかった人種問題について考えさせられ、他にも盛り沢山のプログラムで来て良かったと思います。世界船についても理解できました。(女性 Y.F.)

## 20年後の「昭和咸臨丸」に集う！～「第10回青年の船」20周年～

### ○ 140名が懐かしい顔を揃える

20年前、昭和咸臨丸の愛称を持って、太平洋を横断した仲間たちが、7月27日(土)～28日(日)東京の都ホテルに集い、「第10回青年の船」20周年の幕が切って落とされました。

勝部団長、松下副団長、小野管理官をはじめ当時の幹部の方も数多く参加され、班長も17人が顔を揃えるという出席率の良さを示し、総勢にすると140名が昭和咸臨丸の名のもとに集結しました。

### ○ 船長講話に酔う

今回の目玉は、船内生活を再現する意味で当時の弓場船長をお招きし、「船長講話」からスタートするという念の入れようで、開始時には殆どの参加者が顔を揃えるという、この種の集会にはない出席率のよさでした。

講話は船長服に身をつつんだ弓場キャプテンの語りかけるような口調で始められ、開始早々から

あたかも船内大集会室にいるかのような雰囲気に取り込まれ、まさに昭和咸臨丸の世界に行くにはもってこいの演出で、全員弓場節に大いに酔った一幕でした。

丁度この日は、20年前アメリカ建国200年を記念した昭和咸臨丸が米国・メキシコを訪問して、帰路ハワイに立ち寄りホノルルに入港した日でもあり、参加仲間にとっても一層思い出が強く蘇っていたようでした。

(第10回青年の船20班班長 酒井 洋幸)



▲ 独特の弓場節で参加者を酔わせる弓場船長

## 平成8年度近畿ブロック海外派遣青年のつどい報告

滋賀県青年国際交流機構事務局長 山本 忠

平成8年7月6日(土)～7日(日)

平成8年度日本青年国際交流機構活動スローガン 「世代と国境を超えたネットワークを創り上げよう！」  
「もっと外国を知ろう、日本を教えよう！」

我が滋賀県青年国際交流機構は、上記活動スローガンの下、平成8年度近畿ブロック海外派遣青年のつどいを滋賀県青年会館にて開催しました。梅雨の小休止の中、近畿各府県より総勢80名もの人の参加がありました。

プレゼンテーションでは、「第8回世界青年の船」の指導官であるヘルムート・モーズバッハ氏を講師に迎え「海外で誤解される日本人の非言語的態度」をテーマとして、講話を拝聴しました。

テーマを見ると、難しそうな話に思えますが、講話は、スライドを使用しながら日本語と英語を混ぜてのお話で、身近な問題のため興味深く話を聞くことができました。私たちには感じられなかった小さな事柄ではありますが、よく海外で聞かれる外国との文化の違いを久々に感じる時間ではなかったかと思えます。

その後の平成7年度事業参加者合同報告会では様々な事業に参加した人の報告でみんなが感じた事は、どの事業に参加しても、また参加した年代が違っても変わりがないという共通感覚を改めて感じさせられました。報告するときのみんなの表情や眼差しは、聴いているものにその時の充実した研修内容を訴えるには十分な報告でした。そして、今後の活動にどのように活かしていくかの決意も固いものだと感じました。以前に参加した諸

先輩も忘れかけていたあの時の感動・決意を思い出し、身を乗り出して聞き入っている風景が印象的でした。また、次に参加する平成8年度事業派遣予定者にとっても、意義深いひとときであったと聞いています。

この青年のつどいの目的の一つ「世代を越えたネットワーク創り」のために、滋賀県の夏の風物詩である江州音頭を、他府県の人でも滋賀県民に混じりながら時間の経つのを忘れて踊りました。

また、次の日には、外輪船ミシガン船上にてカリフォルニア大学からの留学生などと交流会を行いました。

2日間と大変短い時間ではありましたが、他府県の人との交流が深まり、国境を越えた交流会と盛り沢山のプログラムの中で、平成8年度活動スローガンは、十分達成できたのではないかと感じています。また、この充実した2日間をこれで終わらせることなく、地元に戻って今後どのように活かしていくか、今後を期待していただきたいと思っています。

私たち滋賀県青年国際交流機構も、他府県の機構に負けることなく、今後も他事業や自主事業にも積極的に取り組んでいきます。

(近畿ブロック海外派遣青年のつどい  
実行委員会事務局長)

# (財)国際東アジア研究センターの紹介

福岡県青年国際交流機構  
安達真理子

全国で初めて、地方自治体が中心になって設立した国際級の研究所を紹介します。

アジア地域に関心や興味をもっておられる方が多いと思いますので、今後の情報収集に役立てていただければ幸いです。

## 1. 北九州市と東アジアをつなぐ研究所の設立

北九州市は、かつて四大工業地帯の一つに数えられた重工業、とりわけ鉄鋼業を中心とした都市であった。しかし、日本の産業構造の転換とともに特に80年代以降、国際化、情報化、サービス化の波がこの都市にも押し寄せ、歴史的、地理的にも関係の深いアジアとの産業面、文化面を中心とした交流拠点都市への模索が始められた。

1987年、長期的な視点で、実りある国際交流を進める、知的インフラというべき学術・研究機能の充実を検討していた北九州市がアメリカでも有数のペンシルベニア大学に対して、同大学分校の進出可能性を打診した。地元を始めとする経済界、研究界、行政が一丸となって協議した結果、その地理的優位性を生かした東アジアを対象とする研究施設設立について合意。

1989年9月に、国際東アジア研究センターを開設し（1990年1月文部省認可の財団法人化）、具体的な研究活動を開始した。

## 2. 国際東アジア研究センターの活動

(1) 東アジアの経済・社会等に関する調査・研究  
ペンシルベニア大学との共同研究による東アジアの経済に関する計量経済モデルの開発と政策シミュレーション分析、東アジアの局地経済圏の調査・分析、都市問題、環境問題（北九州市のもつ環境保全技術の活用方策）等を研究。

(2) 研究成果の発行

センターの活動状況の紹介及び調査研究の報告などを満載した「東アジアへの視点～北九州発アジア情報～」の発行及び研究プロジェクトの研究報告書、会議報告書、ワーキングペーパー等を発行。

(3) 東アジアを中心とする国際交流

ペンシルベニア大学との提携を中心に、国内外、特に東アジア地域の経済、社会問題等



を研究する大学・研究機関との交流の推進。  
昨年11月には、「東南アジア青年の船」の参加青年が視察に訪れた。

- (4) セミナー、シンポジウム、研究集会等の開催  
研究プロジェクトごとに研究集会や著名なアジア研究者を招へいしてアジアの諸問題についてのセミナーの開催。また、企業・団体や一般市民を対象にした市民講座やシンポジウム等も数多く開催し、研究成果の発表やPRに努めている。
- (5) 図書、資料、テーター・ベースの情報処理  
東アジア地域の経済・産業・貿易・社会等の最新の情報や統計データを幅広く収集するとともに、研究者のみならず、学生や一般市民にもこれらを公開し、提供している。



〔問い合わせ先〕

財 国際東アジア研究センター

事務局庶務係 安達真理子

〒803 福岡県北九州市小倉北区大手町11番4号

北九州市大手町ビル 6・7階

TEL 093-583-6202

FAX 093-583-6576

## タンザニアの青少年活動 “UVIKIUTA”

加藤由美子 (国際青年育成交流  
平成6年度タンザニア班副団長)

洋の東西、また、先進国、開発途上国を問わず、青少年活動は、現在、世界中で活発に行われている。タンザニア派遣団が、1994年にタンザニアを訪問した際に視察した団体の一つのUVIKIUTAも、まさにそのような青少年活動団体の一つである。各団体の設立目的、活動等は、当然、その国の状況に応じたものとなってくる。ここでは、そのUVIKIUTAの活動状況を、タンザニアにおける青少年を取り巻く環境も踏まえ、少しご紹介したい。

### I. UVIKIUTAとは？

まず、その名称、UVIKIUTAは、USHIRIKA WA VIJINA WA KIKRISTO WA UZALISHAJI TANZANIAというスワヒリ語の略で、「タンザニアの生産的キリスト教育青少年組織」という意味である。

1988年設立当初は、キリスト教団体ということで、歌やクリスマス、イースター等の教会活動を中心に活動する団体であった。



現在、タンザニアにおいて、青少年が直面している問題の中で、一番大きな問題は、学業を修了した後、職に就けないことである。日本でも、ここ数年、大学新卒者が「氷河期」などと呼ばれているが、タンザニアにおける青少年の就職状況は、日本のそれとは比較にならない厳しさである。要するに就職希望者に対し、仕事の絶対数が不足しているわけである。これは勿論、その国の経済成長と大いに関係するところではあるが……。

そのような問題を解決すべく、UVIKIUTAは教会活動を主体とする団体から、青少年の経済的独立を目的とする団体へと移行していった。現在は、タンザニア共和国の法規に基づき、NGO団体としても登録されている。

### UVIKIUTAの活動

UVIKIUTAは、ダルエスサラームの南24kmの所に広大な敷地を有し、メンバーたちはそこで共同生活を営んでいる。その活動内容は以下のように大きく三つに分けられる。

- ① メンバーの才能や興味に応じ、農業、園芸、家畜・家禽飼育、大工などの経済的作業を営み、その収益でメンバーたちの衣食住を賄う。
- ② 指導的立場になるリーダーを育成していく。
- ③ 環境保護活動に積極的に参加する。

UVIKIUTAはこれらの活動を通して、青少年の経済的独立と、より一層の生活水準・福利厚生を目指している。

### II. ワークキャンプの開催

現在このUVIKIUTAでは、新しい活動の展開としてワークキャンプを行うべく準備中であり、

日本からもボランティア参加者を募集したいとの連絡が入ってきたので、皆さんに紹介したいと思う。

① 期間：11月21日～12月10日

② 活動内容：

- A. 農業、園芸、家畜飼育、大工などの日常活動に参加
- B. ディスカッション

③ 費用：往復航空運賃実費負担、登録費(\$100)、その他個人的費用は参加者負担。

(キャンプ宿泊代、食糧は提供される)

当ワークキャンプには、世界中からのボランティア参加者を募集しており、参加者は英語もしくはスワヒリ語で会話ができることが望ましい。

興味のある方は、資料をお送りしますので下記までご連絡下さい。

日本青年国際交流機構 (IYEO) 担当：大橋

〒103 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436



自分の地域をよく知る *Chance!* 仲間を見つける *Chance!* 世界各地に友人を増やす *Chance!*

## 総務庁青少年国際交流事業「地方プログラム」受入れのお知らせ

国際青年育成交流（外国青年招へい）の地方プログラムでは、栃木県、滋賀県、京都府、鳥取県、島根県、福岡県で外国青年の受入れをして頂きました。外国青年にとって、ホームステイや交流プログラムは忘れえぬ思い出となって胸に残り、8月1日に無事帰国しました。受入れをして下さいました皆様、ありがとうございました。

今後も様々な事業の地方プログラムが予定されています。この中には、表敬訪問、施設見学、交流会、ホームステイなど様々な行事が予定されています。ご自分の地域の受入国に興味のある方、地域で国際交流をしたい方は、積極的に参加して外国青年とともに楽しい思い出を作ってください。

### 【今後の地方プログラムの予定】

○ 第10回日本・韓国青年親善国際交流 北海道、青森県、大阪府（平成8年10月19日～27日）

○ 第18回日本・中国青年親善国際交流

石川県、福井県、京都市、北九州市（平成8年10月26日～11月6日）  
（韓国青年約40人、中国青年約30人が各道府県市を順番に訪問します。）

○ 第2回アジア太平洋青年招へい地方プログラム（平成8年10月30日～11月4日）

福島県…………マレーシア、ニュー・ジーランド、ラオス、トゥヴァル（各6名）

徳島県…………オーストラリア（8名）、ヴィエトナム、ソロモン（各6名）

佐賀県…………韓国（8名）、インドネシア、フィリピン、パラオ（各6名）

沖縄県…………中国（8名）、シンガポール、タイ、西サモア（各6名）

広島市…………ブルネイ、カンボディア、フィジー、ナウル（各6名）

○ 第23回「東南アジア青年の船」の地方プログラム（平成8年11月22日～24日）

宮城県、群馬県、静岡県、愛知県、和歌山県、香川県、山口県、大阪市

（日本参加青年と各外国参加青年の混合グループで各県市を訪問します。）

※「第9回世界青年の船」は、茨城県、三重県、兵庫県、岡山県、高知県、宮崎県を訪問。

（国名等の詳細は、次号にてお知らせします。）

青少年国際交流事業事後活動推進大会

日本青年国際交流機構第12回全国大会  
第3回青少年国際交流全国フォーラム

in MIYAZAKI

太陽とのふれあい、そして自然とのかたりあい——Mの国での再発見——

1. 主催 総務庁青少年対策本部 財団法人青少年国際交流推進センター 日本青年国際交流機構  
宮崎県青年国際交流機構
2. 期日 11月30日(土)～12月1日(日)
3. 会場 宮崎フェニックス「シーガイア」サンホテル フェニックス (TEL 0985-39-3131)
4. 参加費 会員 17,000円(宿泊、懇親会、朝食含む)／小中学生 10,000円  
非宿泊 10,000円／小学生未満 無料(ベット未使用の場合、朝食は実費)
5. 申込方法 同封の振込用紙に必要事項を記入の上、参加費用をお振り込み下さい。  
又は、官製葉書にIYEO全国大会申込みとお書きのうえ振込用紙の記載内容を記入し  
てお送り下さい。10月21日(月)申込締切り  
〔葉書による申し込み〕〒880-01 宮崎県大字塩路 2759-38 インテリアハンク内 斉藤 計行
6. 参加費振込先 郵便振込口座番号：01960-3-11393  
口座名義：IYEO全国大会
7. プログラム 国際交流パネル展／インターネットコーナー……世界をひと巡り  
講演会「鯨博士がみた地球と自然環境」 講師：奈須敬二先生(農学博士)  
報告会／懇親会／宮崎シーガイア見学、他に小旅行コースを準備
8. お問い合わせ先 IYEO全国大会事務局 斉藤 計行  
〒880-01 宮崎県大字塩路 2759-38 インテリアハンク内  
TEL 0985-39-4167 FAX 0985-39-4183  
世界が、より身近に。あなたも体験してみませんか。

船上パーティのお知らせ

東南アジア青年の船の出航日前日、恒例のリユニオン・パーティを開催します。  
エスニック料理にアセアン音楽、ダンス。そして楽しい会話。「にっぽん丸」でのひとときをご家  
族友人の皆さんとお楽しみ下さい。会員でない方でも楽しめます。  
日時：9月26日(木)18時～21時 会場：東京港晴海埠頭「にっぽん丸」船上  
会費：7,000円(当日会場にていただきます。)  
問い合わせ／申込先：〒103 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6F  
IYEO リユニオン係 TEL 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436

## お知らせ

今回は、全国大会のご案内の関係で、Bulletin Boardの各県版を作成できませんでしたので、要望のあった県からいくつかのお知らせを掲載します。



### 北海道

平成8年度は、北海道から8名の方が、総務庁青少年国際交流事業に参加します。

1月に報告会&壮行会を企画しますので、ぜひご参加下さい。次回に詳細をお知らせします。

〔問い合わせ先〕

会長 富樫 泰介 TEL 011-511-2766  
FAX 011-531-2327

事務局 上森奈穂美 TEL&FAX  
011-881-8340

### 香川県

#### ホームステイの受入れ家庭募集!!

\*平成8年度インドネシア青年招へい事業  
(国際協力事業団)

日程：平成8年10月4日～10月6日

\*東南アジア青年の船(総務庁青少年対策本部)

日程：平成8年11月22日～11月24日

〔問い合わせ先〕

香川県青年国際交流機構事務局

田川 雅一 TEL&FAX  
0878-77-2711 (自宅)

### 編集後記

目の回るような忙しさだった7月が過ぎて少々ほっとしながらマクロコズムの編集をした8月でした。秋は、様々なプログラムが各地で目白押し

ですが、皆さんのスケジュールはいかがですか。夏の疲れを十分にとって、仕事に活動に頑張ってくださいね!

\*本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 9月号 Vol.12 1996年9月1日発行(隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail LDP 04056 @niftyserve.or.jp

編集協力：総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定価：195円(本体189円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

## 「第8回世界青年の船」報告会

6月30日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて「第8回世界青年の船」報告会を開催しました。当日は、70名以上の「第8回世界青年の船」のメンバーによって、ビデオ上映・寸劇・パネルディスカッション・ファッションショー等の盛り沢山の企画が行われ、一般からも多くの参加者を得ることができました。



▶ パネルディスカッションでは  
鋭い視点からの意見も

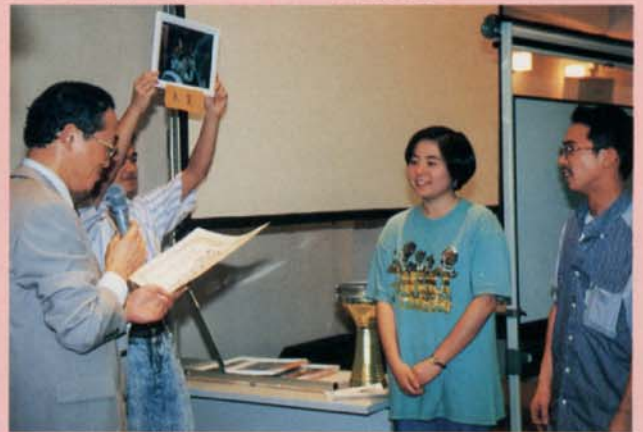


▲ 力作揃いのフォトコンテスト

▼ 民族衣装を着れば、あっという間に国籍不明



▼ 第1回フォトコンテスト大賞受賞のお二人



▼ 第8回のメンバーがこんなに集まりました



▶ 懇親会では小グループで

## 都道府県

各地で、平成7年度総務庁青少年国際交流事業参加者による事業報告会が開催されました。平成8年度の参加者へのアプローチも大切な活動の一つです。平成7年度の参加者の皆さん、後輩へのアドバイスを宜しくお願いします。



▲ 静岡県青年国際交流機構の報告会



▼ 愛知県青年国際交流機構の報告会

▼ 愛知県青年国際交流機構の恒例であるお茶摘み交流会



各都道府県の活動を写真で紹介するページです。  
個人、グループの活動も大歓迎！  
皆さんの投稿写真で紙面を作りたいと思います  
ので、ぜひ力作の写真をお送り下さい。